

キックオフミーティングの議論を踏まえた論点整理～「時間 の確保・再配分について～
(案) に対する意見

秋田 喜代美 (学習院大学)

次回会合は時間も限られていますので、メモを作成しましたので提出させていただきます。

1. 子供の特性を踏まえたオルタナティブな学びの場の提供

現在文部科学省の方では、特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方に関する有識者会議でさまざまな議論がなされている。そこでも外部機関との連携や外部機関による学びの場の提供による多様なプログラムの提供の必要性が議論されている。特性に応じた場を学校外にも準備することは単に学校の補填ではなく、将来的な中長期的な時間を考えた時に、子どもたちの特性を生かして社会で活躍できる場の展望を与え、またそうした子供たちのネットワークを学校外に形成していくものであるということもできる。

時間の問題を考える時に、年間や特定の時期、あるいは小学校から高校までの12年間だけでなく、生涯にわたる WELLBEING や自己実現という時間を見通して、オルタナティブな学びの在り方や教育を検討をすることで、これまでの時間の議論からの質の転換を図ることにつながるのではないかと考えられる。(時間的な展望の在り方)

2. デジタル社会の進展を踏まえたデジタルコンテンツの活用・オンライン教育の推進

GIGA スクール構想によって、一人一台端末というデバイスは整ったが、デジタルコンテンツとしてデジタル教科書以外に関する議論はほとんどなされていない。たとえば、経済産業省の未来の教室における STEAM ライブラリーなどは好例の一つであると考えられるが、公教育のための良質のデジタルコンテンツを開発していくことがきわめて重要である。その時に学習指導要領との整合性・一貫性を図った学習材が、教師や児童生徒によって選択可能な形で提供されることの意味は大きい。しかしサービスとしてなんでもありにならないように、あくまでも質をどこかで確認しながらのデジタル教科書以外のコンテンツ提供を検討していく必要がある。また、電子図書館、電子書籍は極めて重要なリソースであるが、当方主査で昨年度文部科学省で実施した「電子図書館及び電子書籍を活用した子供読書活動推進に関する実態調査」によれば、2割の自治体が公立学校に電子書籍を導入予定としているが、実際に公立図書館で貸し出しをしているのは1割に過ぎない。どこからでもアクセス可能なデジタルライブラリやデジタルコンテンツパッケージのプラットフォームが必要である。それによって、いわゆる授業時間だけではない、バーチャルな学習環境の提供が可能となる。

このことは、「時間」を学校の中での授業時間における学びから学びの時間を拡張、発展する質の転換を図ることに寄与すると考えられる。(DX化による公教育の時間的拡張)

3. 教科の本質を踏まえた教育内容の重点化、実社会に生きる教育

OECD PISA2018 によって、授業時間数と国際学力テストの結果には直接的な関連性がないことが示されており、学びの時間の質が議論され、限られた時間の中でいかに質の高い学びをするかが問われてきている。特にカリキュラムオーバーロードといわれるように新たな時代の変化に伴い、教育内容が増えてきている。カリキュラムオーバーロードには、以下の4種の次元がある。各々に対応した方略がとられないと、カリキュラムの重点化は適切に測れないと考えられる。

1. カリキュラムの拡張 : 社会の要求に応じてカリキュラムに新学習内容を追加する傾向。
2. 学習内容の詰め込み過ぎ : 予定時間に対して、学習内容が量的に過多である傾向。
3. 認識されている過負荷 : 教師や生徒により、過剰な負荷を認識あるいは経験している傾向。
4. カリキュラムの不均衡 : 優先度による適切な調整が行われず、他領域を犠牲にして特定の領域に過剰な重点化がなされる傾向。

また、各教科の本質だけではなく、教科横断の発想で、重要課題としてたとえば、地球規模での環境やエネルギー、人口移動などの社会変化の重要課題を問う教育内容も重要である。(カリキュラムにおける時間配分の見直し)

4. 文理のリバランス (ジェンダーバイアス含む)、文理分断からの脱却

今回高校生や大学生に実際に生の意見を尋ねてみた。彼らは、文系を選択して経済学分野や社会科学分野に進学したが統計が必要になりもっと数学等を高校でやっておけばよかった、また理系の学生からも英語論文を読む必要があったり、デザインなどの専門性も必要になるので芸術科目も高校で学んでおきたかったなどの声が実際にあがっている。彼らは学生の日線から高大の学習、教育の接続を考えた時に、高校での文理コース選択を越えた学習の必要性を唱えており、真の高大接続のためにも文理分断からの脱却は必要であると考えられる。またそのような意味からも教科横断的な探究学習が大変意味を持ってくるであろう。

高大の時間の連続性を、大学入試突破ということで分断することなく考えていくことが重要であるだろう。時間的な効率性ととともに時間の連続性を一層考えていくことが有効である。(高大における時間の連続性の重視)